

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【美園小】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 国語では、文法、漢字などの基礎的な内容に課題が みられた。算数でも、基礎的な問題である四則計算や 面積や体積を問われる問題に課題がみられた。 【指導上の課題】 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分で ある。	⇒ 授業中や家庭学習で、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリ を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。【週1回 の学習タイム】学習履歴を確認し、個に応じた指導を行う【月に1度 は確認】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 自らの学びをメタ認知し、自己調整していく力が 弱い。 【指導上の課題】 児童が自らの学びを振り返る時間を確保できて いない。	⇒ 授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに 生かせるようにする【毎時間設定】。また、振り返りをふまえ、授業 において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主 体的に課題を解決したりする場を設定する【毎授業で10分実施】。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	調査の振り返り(4月) ①児童生徒による振り返り ②調査問題の解説 ③振り返りの終了報告	
思考・判断・表現	結果提供(7月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能			
思考・判断・表現			

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【美園小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語科では、言葉の使い方や文法、漢字などの基礎的な内容に課題がみられた。算数科でも、基礎的な問題である四則計算や面積や体積をを問われる問題に課題がみられた。授業の中で、基礎基本を定着させる指導法の工夫や「ドリルパーク」「スタディサブリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことが必要であるとする。
思考・判断・表現	国語科では、どの学年も「話すこと・聞くこと」に課題がみられた。ポイントを意識してスピーチしたり、話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をしたりするなど、体験的な学びをすることが効果的であるとする。算数科では、二次元表の読み取りや、その特徴を用いて2つの観点からデータを分類し、説明することに課題がみられた。表の読み取り方を理解させ、資料を用いて説明したりできるようにする力の育成が必要であるとする。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答が90%以上となった。引き続き児童と共に必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせるとともに、自力解決する場を意図的に設定した授業を行っていきたい。また、ICTを活用した振り返りの実施や記録の蓄積を図り、主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。

① 目 標・策			
目 標			策
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査の全国平均正答率の結果より国語・算数の「知識・技能」において2pt以上向上させる。	⇒	「ドリルパーク」、「スタディサブリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。継続して問題に取り組み、苦手な項目を中心に取り組み方を変えていく。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査の全国平均正答率の結果より国語・算数の「思考・判断・表現」において2pt以上向上させる。	⇒	1人1台のタブレットPCを活用した自力解決や考えの共有の場の充実を図ることで、自分の考えを論理的に伝えたり、資料を用いて説明したりできるようにする。また、スピーチするポイントやインタビューの効果的な方法などを意識し、体験的な学びをできるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒	すべての授業において、児童と共に必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。また、児童が自身の学びの課程や変容を自覚して取り組むために授業中に自己のふりかえりができる時間を設定する。

⑤ 目 標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査全国平均正答率の結果より、国語も算数も上回る結果となった。	A
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査の全国平均正答率の結果より、算数の「思考・判断・表現」において大きく上回った。しかし、さいたま市学習状況調査の市平均正答率の結果より国語の「思考・判断・表現」においては大きく下回った。	B
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は令和5年度全国学力・学習状況調査では91%、さいたま市学習状況調査では5年生が95.8%、6年生が92.4%となり、全国平均を上回る結果となった。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語は、全国学力・学習状況調査の全国平均正答率と比較して高かった。しかし、「言葉の特徴や使い方」に課題がみられた。敬語の中でも尊敬語・謙譲語の使い分けの正答率が低かった。算数はやや高かった。しかし、「割合」の理解に課題がみられた。2つ解答を選ぶ問題で2つ解答している児童がほとんどなので、問題はしっかり読んでいると考えられる。基準量と比較量の関係から割合を理解していないと考えられるので、さまざまな数字で表された割合について理解を深めるよう授業改善に努める。
思考・判断・表現	国語は、全国学力・学習状況調査の全国平均正答率と比較し、やや上回った。「話すこと・聞くこと」に課題がみられた。インタビューの際に必要な質問の理由を理解していない児童が多かった。算数では、全国平均正答は大きく上回った。算数の「図形」において課題がみられた。面積を比べる問題では、正しい選択はできているが、理由を言葉や数を用いて記述できない児童が42%と多かった。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では、肯定的な回答の割合が91%で目標値に達した。1人1台のタブレットPCを活用した振り返りを行うなど、より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
目 標			策
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の平均正答率の結果より国語・算数の「知識・技能」において2pt以上向上させる。	⇒	変更なし
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査の全国平均正答率の結果より、算数の「思考・判断・表現」において2pt以上向上させる。さいたま市学習状況調査の市平均正答率の結果より国語の「思考・判断・表現」において2pt以上向上させる。	⇒	全国学力・学習状況調査の結果から、「話すこと・聞くこと」に課題がみられたため、スピーチするポイントやインタビューの効果的な方法などを意識し、体験的な学びをし、生活の場面で実際に使う機会を多く設定したりする。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	2教科ともに、自校の平均正答率が市の平均正答率を上回る結果となった。 国語科では、「書くこと」の平均正答率が非常に高い。一方で「読むこと」の正答率が特に低いことが分かる。登場人物の性格を想像して文章を読むことに課題が見られた。 算数科では、すべての領域で平均正答率が高い。個別の問題で単位の関係についての正答率が低いことが分かる。単位の関係についての理解に課題がみられた。	小4	2教科ともに、自校の平均正答率が市の平均正答率を若干下回る結果となった。 国語科では、「話すこと・聞くこと」の正答率が特に低いことが分かる。スピーチのポイントの理解に課題がみられた。 算数科では、「変化と関係」の平均正答率が高いが「データの活用」の平均正答率が低いことが分かる。二次元表の特徴を用いて、2つの観点からデータを分類し、説明することに課題がみられた。
小5	4教科ともに、自校の平均正答率が市の平均正答率を上回る結果となった。基礎的な学力が定着している。 国語科では、「話すこと・聞くこと」の正答率が他の区分に比べて低いことが分かる。話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることに課題がみられた。 算数科では、「データの活用」の平均正答率が低いことが分かる。二次元表の見方の理解に課題がみられた。	小6	4教科ともに、自校の平均正答率が市の平均正答率を大きく下回る結果となった。 国語科では「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の平均正答率が特に低いことが分かる。5年と同様に話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることに特に課題がみられた。 算数科では、特に「図形」の平均正答率が低いことが分かる。角柱の底面や高さなどがどこかを理解し、体積を求めることに課題がみられた。

